第96期

中間報告書

平成28年4月1日▶平成28年9月30日

証券コード：2204

株式会社 中村屋

経営理念

新たな価値を創造し、健康で豊かな生活の実現に貢献する。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに中村屋グループ第96期第2四半期（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）における事業の概要をご報告申し上げます。

代表取締役社長　鈴木 達也

経営環境と成果の報告

当第2四半期中における菓子・食品業界は、消費マインドの回復に遅れが見られるなか、消費者の根強い節約・低価格志向による価格競争の激化や今夏の天候不順の影響などから先行きが不透明な状況が続きました。

このような環境の下、当中村屋グループは「中期経営計画2015-2017」の2年目を迎え、中期ビジョン「事業構造改革による現状打破を実行し、収益体質の強化と成長軌道への転換を図る」の実現に向け、新商品開発や新規販路開拓による売上高の拡大と効率化による生産性の向上に努めました。

しかしながら、不採算店舗の閉鎖等の影響により、当第2四半期累計期間の連結売上高は、15,636百万円 前年同期に対して303百万円の減収となりました。利益面では、営業損失は1,239百万円 前年同期に対し125百万円の減益、経常損失は1,176百万円 前年同期に対し101百万円の減益、親会社株主に帰属する四半期純損失は870百万円 前年同期に対し94百万円の減益となりました。

今後の取組みについて

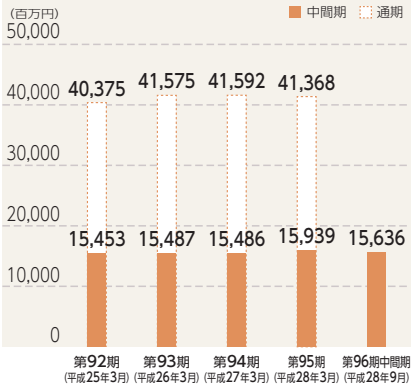
国内市場の縮小、食の安全・安心に対する要求水準の高まり、人件費の上昇や消費税の再増税など、企業を取り巻く環境は厳しい状況が続くことが予測される一方で、景気は緩やかな持ち直し傾向にあり、将来的には東京五輪による経済への好影響も期待されております。

このような環境において当中村屋グループは、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、当社の強みを活かした高付加価値の商品・サービスの提供に努め、合わせて「選択と集中」の観点から今後の成長が見込まれるマーケットに経営資源を集中させることで、事業の持続的な成長を目指します。さらに、市場や業界の変化に柔軟かつ迅速に対応できる組織体制の構築を図るとともに人材育成を積極的に行い、将来に向けた事業基盤を確固としたものにします。

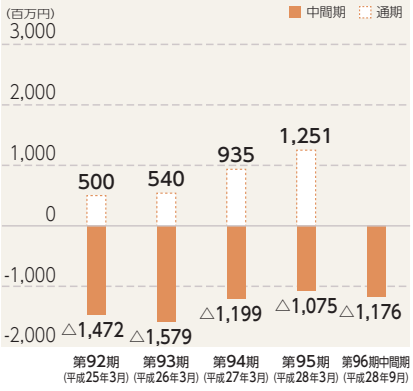
株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

当第2四半期のポイント　◆不採算店舗閉鎖等の取組みから、減収・減益となりました。

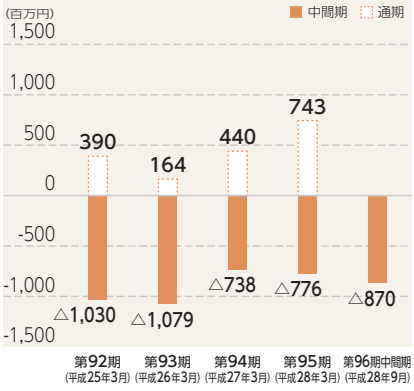
連結売上高



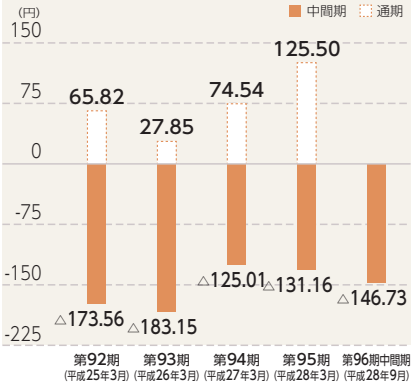
連結経常利益又は損失



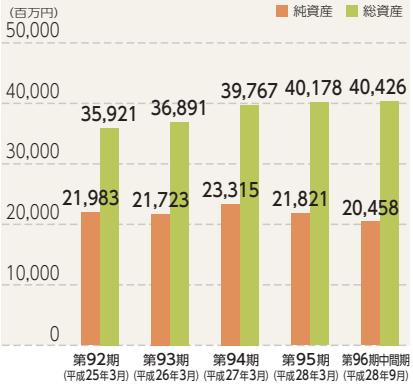
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失



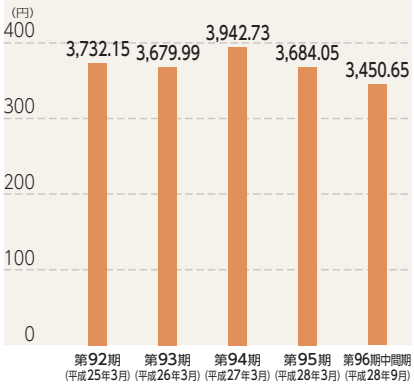
一株当たり当期純利益又は四半期純損失



純資産／総資産



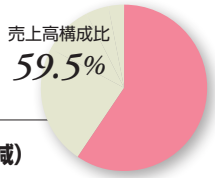
一株当たり純資産



(注)当社は、平成28年10月1日をもって普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。上記グラフは、第92期に株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益又は四半期純損失および1株当たり純資産を表記しております。

ハロウィン
うすあわせ

菓子事業



売上高 9,319百万円（前年同期比4.6%減）

菓子事業では、菓子・中華まんじゅうの新発売や改良発売に積極的に取り組みました。

パックデザート類では、上質化・個食ニーズに対応した「和涼えらび」を新発売しました。また、ギフト商品の改良や自家用和風デザート類の拡販に努めました。

贈答菓子類では、主力商品「うすあわせ」「あんまかろん」の改良を行うとともに季節イベント仕様での販売にも取り組みました。新商品では、徳島県産なると金時を使用したお芋まんじゅう「ぽくぽてと」を発売しました。また、袋菓子類「濃味仕立て うにあられ」を発売し、個包装シリーズの品揃えを強化しました。

中華まんじゅう類では、「肉まん」「あんまん」などの改良を行い、商品力の強化を図りました。コンビニエンスストア販路では、口どけがよく弾力のある生地が特徴の「もちもち特製豚まん」やチーズをたっぷり使用した「濃厚チーズカレーまん」を発売しました。

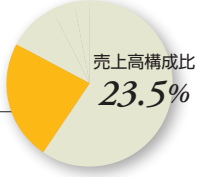
土産販路では、「新宿カリーあられ」「東京しょこらクレープ」「東京パリコロッテ」の販売を東京駅・羽田空港などで展開し、売場拡大に努めました。

和風デザート専門店「ISSUI（イッスイ）」では、TV放映を通じて「ふわとろ黒蜜ぷりん」の魅力を伝え、拡販に繋げました。月餅専門店「円果天（えんかてん）」では、「円果天Cafe レモン」を新発売し、新たなお客様の開拓に取り組みました。

新宿中村屋ビル地下1階「スイーツ&デリカBonna（ボンナ）新宿中村屋」では、焼きたてのマロンパイや揚げたてのカリーパンなど出来立て商品を中心に販売するほか、チーズやハム、ワインなどの品揃えを強化しました。

Bonna焼きたてパイ工房
マロンパイ

食品事業



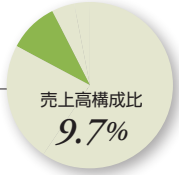
売上高 3,677百万円（前年同期比5.6%増）

業務用食品事業では、ファミリーレストラン、カフェ、ファストフード、給食業態に向けてパスタソース、カレーソースなど調理用ソースの提案を積極的に行うほか、コンビニエンスストア向けにカレーパンの具材の供給を図るなど新規販路の開拓にも努めました。

市販食品事業では、レトルト「インドカリー」シリーズ発売15周年を迎え、キャンペーンを展開しました。また、柔らかく煮込んだ大きな牛肉とシルキーな口どけの「純欧風ビーフカリー」を拡販するほか、好評の本格四川シリーズでは「鶏肉の旨辛炒め」を新たに発売しました。

純欧風ビーフカリー

飲食事業



売上高 1,514百万円
（前年同期比4.5%減）

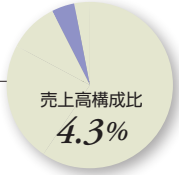
オリーブハウス
はまぐりと香草の
スープスパゲティ

Granna コースメニュー

直営レストラン「オリーブハウス」「インドカリーの店」、焼きたてパンの店「ファリーヌ」では、主力商品の改良や新商品の開発に取り組み、グランドメニューの改定や季節フェアメニューの提案を行うとともに、心のこもったサービスを実践しました。一方で、不採算店の閉鎖による収益性の改善に努めました。

新宿中村屋ビル地下2階「レストラン&カフェManna（マンナ）新宿中村屋」では、純印度式カリー以外のメニューの充実も図りました。8階「レストランGranna（グランナ）新宿中村屋」では、ワイナリーとの共同賞味会を開催し好評を得ました。

不動産賃貸事業

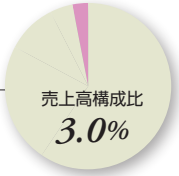


売上高 665百万円
（前年同期比0.7%減）

不動産賃貸事業では、笹塚NAビルにおいて、快適なオフィス空間を提供することで満室稼動を維持しました。また、一昨年10月に開業した商業ビル「新宿中村屋ビル」も満室稼動し、順調に推移しました。

新宿中村屋ビル

その他事業



売上高 462百万円
（前年同期比5.7%増）

スポーツ事業では、「NAスポーツクラブA−1」において、健康への貢献を訴求したメニューの開発・導入を行い、お客様満足度の向上を図りました。また事業展開では小型フィットネスジム「NAスポーツクラブA−1EXPRESS」杉並宮前店を4月に、明大前店を7月に開店しました。

スタジオレッスン

クライミング

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（平成28年9月30日現在）	前第2四半期（平成27年9月30日現在）	前期（平成28年3月31日現在）
資産の部			
流動資産	9,330	10,536	9,713
固定資産	31,096	30,470	30,465
有形固定資産	24,589	23,962	23,863
無形固定資産	277	265	263
投資その他の資産	6,230	6,243	6,340
資産合計	40,426	41,006	40,178
負債の部			
流動負債	6,979	9,481	5,049
固定負債	12,989	9,564	13,308
負債合計	19,968	19,045	18,357
純資産の部			
株主資本	20,748	20,544	22,183
資本金	7,469	7,469	7,469
資本剰余金	8,139	8,032	8,136
利益剰余金	5,334	5,277	6,796
自己株式	△ 195	△ 235	△ 219
その他の包括利益累計額	△ 290	1,417	△ 363
その他有価証券評価差額金	1,392	1,481	1,409
退職給付に係る調整累計額	△ 1,682	△ 64	△ 1,772
純資産合計	20,458	21,961	21,821
負債・純資産合計	40,426	41,006	40,178

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（平成28年4月 1日から 平成28年9月30日まで）	前第2四半期（平成27年4月 1日から 平成27年9月30日まで）	前期（平成27年4月 1日から 平成28年3月31日まで）
売上高	15,636	15,939	41,368
売上原価	9,938	9,961	24,276
売上総利益	5,698	5,978	17,092
販売費及び一般管理費	6,937	7,092	15,880
営業利益又は損失（△）	△ 1,239	△ 1,114	1,212
営業外収益	78	70	142
営業外費用	15	31	102
経常利益又は損失（△）	△ 1,176	△ 1,075	1,251
特別利益	1	0	121
特別損失	34	27	79
税金等調整前当期純利益又は四半期純損失（△）	△ 1,209	△ 1,102	1,294
法人税、住民税及び事業税	35	36	171
法人税等調整額	△ 375	△ 362	380
当期純利益又は四半期純損失（△）	△ 870	△ 776	743
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△ 870	△ 776	743

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（平成28年4月 1日から 平成28年9月30日まで）	前第2四半期（平成27年4月 1日から 平成27年9月30日まで）	前期（平成27年4月 1日から 平成28年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,469	△ 1,706	1,925
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,409	△ 78	△ 435
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,596	1,972	△ 557
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△ 2	△ 53
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,282	186	880
現金及び現金同等物の期首残高	2,385	1,505	1,505
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	1,103	1,691	2,385

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

このコーナーでは「中村屋ならではのモノ・コト」や「中村屋の今」にスポットを当て、その詳細に迫ります。

単元株式数の変更・株式併合について

平成28年10月1日をもって

1 単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。
2 当社の普通株式10株を1株といたしました。

株主様におかれましては、これに伴う特段のお手続きの必要はありません。

株式併合による影響

今回の株式併合により、

1. **発行済株式の総数が10分の1に減少します。**
2. **1株当たり純資産額は10倍となります。**

株式市況の変動など他の要因を除けば、株主様がご所有の当社株式の資産価値が変わることはありません。
また、株主様がお持ちの権利（議決権、配当、株主優待）につきましても変わることはございません。

1株未満の端数が生じる場合の処理

今回の株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合、会社法に基づいて以下の通り処理します。

1. **全株主様の端数分を一括して処分します。**
2. **その処分代金を、端数が生じた株主様に対し、端数の割合に応じてお支払いたします。**

※ このお支払金額（端数株式処分代金）のご案内は、平成28年12月初旬にお送りする予定です。

株主優待のご案内

日頃のご支援・ご愛顧にお応えするため、平成29年3月31日の最終株主名簿に記録された株主様から次の内容で株主優待品を6月中旬～下旬にお届けいたします。（ご所有株式数に応じ「A」、「B」または「C」から選択していただきます。）

所有株式数	A	B	C
100株以上300株未満	2,000円相当の当社商品	優待券1冊&通信販売割引	社会貢献活動団体へ寄付2,000円
300株以上500株未満	3,000円相当の当社商品	優待券2冊&通信販売割引	社会貢献活動団体へ寄付3,000円
500株以上	5,000円相当の当社商品	優待券2冊&通信販売割引 &3,000円相当の当社商品	社会貢献活動団体へ寄付4,000円 &通信販売割引

※ 優待券1冊は15%割引券20枚綴り（お取扱い可能指定店舗でのお買物・ご飲食にご利用いただけます）。
※ 通信販売割引は15%割引10回分（オペレーターによる「株主確認」を実施させていただきます）。

会社概要（平成28年9月30日現在）

概要

創業	明治34年12月30日
設立	大正12年4月1日
資本金	74億6,940万円
営業内容	各種和洋菓子・パン・その他食料品の製造、販売ならびに飲食店の営業
従業員数	834名

（上記の他臨時従業員が期中平均878名おります。）

役員

代表取締役社長	鈴木 達也	取締役	荒井 英夫	執行役員	小田川 聡
取締役兼専務執行役員	小林 政志	取締役	中山 弘子	執行役員	大野 正美
取締役兼専務執行役員	小林 恒	常勤監査役	本間 忠男	執行役員	伊賀 義晃
取締役兼常務執行役員	二本松 壽	常勤監査役	吉岡 修一	執行役員	鈴木 克司
取締役兼執行役員	佐良土 理文	監査役	原 秋彦		
取締役相談役	染谷 省三	監査役	山本 光介		

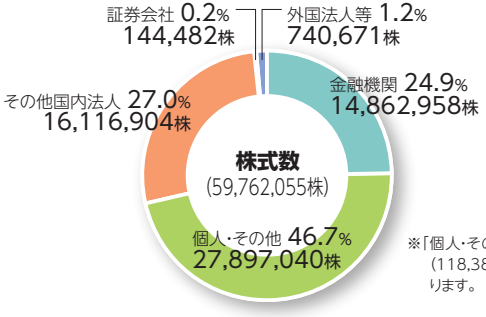
（注）取締役荒井英夫・中山弘子の両氏は社外取締役であります。
監査役原秋彦・山本光介の両氏は社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数	199,044,000株	
発行済株式の総数	59,762,055株	（注）自己株式118,381株が含まれております。
株主数	9,715名	（注）前期末に比し212名減少いたしました。

平成28年6月29日開催の第95回定時株主総会決議により平成28年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施しました。これにより、発行可能株式総数は、19,904,400株となり、発行済株式の総数は5,976,205株になりました。

所有者別株式分布状況



※「個人・その他」には自己株式（118,381株）が含まれております。

お知らせ　株主優待券利用可能店舗 オリーブハウス西宮店、オリーブハウス生駒店、ファリーヌ戸塚店は閉鎖いたしました。株主の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご了承をお願いいたします。

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）
中村屋取引先持株会	5,690
株式会社みずほ銀行	2,909
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,905
三井不動産株式会社	1,800
日本製粉株式会社	1,301
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,151
日東富士製粉株式会社	1,110
豊通食料株式会社	1,100
株式会社りそな銀行	1,000
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	966

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株（平成28年10月1日より変更いたしました。）
公告方法	電子公告により掲載。ただし電子公告を行えない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社となります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		0120-288-324

表紙の写真　「月餅」（小豆餡・木の実餡）
くるみ入りのしっとりとした胡麻風味の小豆餡と、フルーツやナッツ類をミックスした木の実餡をそれぞれ香ばしい生地で包みました。来年発売90周年を迎える中村屋伝統の味です。

●本報告書の商品写真はイメージです。

株式会社 中村屋

住　所：東京都新宿区新宿三丁目26番13号
e-mail：webmaster@nakamuraya.co.jp
URL：http://www.nakamuraya.co.jp
〈お問合せ先〉総務・法務部
電　話：03-5454-7111

UD FONT